

July 8, 2021

【前日の為替概況】ユーロドル、続落 原油安を受けた資源国通貨とともに下落

7日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続落。終値は1.1790ドルと前営業日NY終値(1.1824ドル)と比べて0.0034ドル程度のユーロ安水準だった。WTI原油先物価格が一時3%超下落すると、ドルが対資源国通貨中心に上昇。ユーロに対してもドル買いが優勢となり、節目の1.1800ドルを下抜けて一時1.1782ドルと4月5日以来約3カ月ぶりの安値を付けた。欧州時間発表の5月独鋳工業生産が予想を下回り、欧州経済の先行き不透明感が広がったことも相場の重し。その後の戻りも1.1820ドル付近にとどまった。

なお、欧州中央銀行(ECB)は金融政策の戦略見直しの結果を明日8日20時に公表すると発表。21時30分にはラガルドECB総裁が会見を行う。一部報道では「ECBは新たなインフレ目標を2%に設定することで合意した」「新たなインフレ目標のオーバーシュートを受け入れる」と伝わった。

ドル円は4営業日ぶりに小反発。終値は110.66円と前営業日NY終値(110.63円)と比べて3銭程度のドル高水準だった。米長期金利の指標である米10年債利回りが一時1.2946%前後と2月19日以来の低水準を付けたことが相場の重しとなり、21時30分前に110.51円付近まで下押ししたものの、対資源国通貨中心にドル高が進むと対円でもドル買い戻しが優勢に。23時30分前には110.81円付近まで持ち直した。ただ、欧州時間に付けた日通し高値110.82円には届かなかった。

6月15日-16日分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では「テーパリング開始の基準に向けた進展が続くと予想」「経済活動と雇用指標が強まった」「インフレに対するリスクが上向きに傾いていると判断」としながらも、「実質的なさらなる進展の基準は、まだ満たされていない」「資産購入計画の変更を発表するのに忍耐強くあるべき」「経済見通しへのリスクは残っている」との見解が示された。議事要旨公表後にやや弱含む場面もあったが、反応は一時的だった。

ユーロ円は4日続落。終値は130.50円と前営業日NY終値(130.81円)と比べて31銭程度のユーロ安水準。ユーロドルが下落につれた売りが出て、一時130.43円と日通し安値を付けた。原油安を背景に、資源国のクロス円が下落した影響も受けた。

【本日の東京為替見通し】円買い材料は少ないがドル円はもみ合いか、ECB戦略点検に注目

本日の東京時間のドル円は110円後半を中心としたもみ合いとなるか。昨日はわずかながら先週のレンジ下限を割り込んだものの押し返されている。欧米時間での下値トライも110円半ばで支えられたことを考えると、潜在的な買い意欲は本日も継続されそう。そもそも、日本のファンダメンタルズは元々弱く、東京都で再び緊急事態宣言が発令される状況下で、経済再開にかじを切っている他国と比較する日本=円買いが長続きすることも難しいだろう。国内からは政治的な信頼を失い、海外からは経済的信頼や新型コロナウイルス対策への信頼も失っていることで、円買いには限りがありそう。

ドル円以外では昨日はふたつのユーロで盛り上がった。1つ目はサッカー・EURO2020の準決勝が日本時間早朝まで行われて、世界中で観戦されていた。イングランドの勝利は英国経済にとっては好要因となるが、スタジアムの状況を見ている限りでは新型コロナウイルス・デルタ株が蔓延しないわけがなく、今後の感染状況が注目される。なお、EURO2020決勝も英国のウェンブリースタジアムで開催される。

2つ目の通貨ユーロは、昨日約3カ月ぶりの水準まで弱含んだ。一部通信社が、「欧州中央銀行(ECB)は新たなインフレ目標を2%に設定することで合意する」「新たなインフレ目標のオーバーシュートを受け入れる」と報じている。柔軟性を持たせ一時的なインフレに対してもテーパリングを先走らないということであれば、ユーロの上値は重くなるか。なお本日、日本時間20時にECBによる金融政策の戦略見直し公表されることで、内容をより吟味する必要があり要注目となる。

なお、オセアニア通貨の動きにも引き続き注意を払いたい。原油価格の調整売りなどもあり、一昨日のNY入り後から上値が抑えられているが、上述のユーロ圏と比較するとインフレ懸念がある。本日はロウ豪準備銀行(RBA)総裁の講演もあることで、豪ドルも発言内容次第では急に動意づく可能性もある。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 5月国際収支速報
 - ◇ 経常収支（予想：季節調整前1兆8200億円の黒字／季節調整済1兆5866億円の黒字）
 - ◎ 貿易収支（予想：2415億円の黒字）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 14:00 ◇ 6月景気ウォッチャー調査（予想：現状判断指数41.8／先行き判断指数49.5）

<海外>

- 11:30 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、講演
- 14:45 ◇ 6月スイス失業率（季節調整前、予想：2.9%）
- 15:00 ◇ 5月独貿易収支（予想：151億ユーロの黒字）
- 15:00 ◇ 5月独経常収支
- 19:35 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 20:00 ◎ 6月メキシコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.51%）
- 20:00 ◎ 欧州中央銀行（ECB）、金融政策の戦略見直しの結果を公表
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：0.10%で据え置き）
- 21:00 ◎ 6月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比0.59%）
- 21:30 ◎ ラガルドECB総裁、会見
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：35.0万件／333.5万人）
- 24:00 ◇ EIA週間在庫統計
- 9日 04:00 ◇ 5月米消費者信用残高（予想：184億ドル）

9日

<国内>

- 08:50 ◇ 6月マネーストックM2

<海外>

- 10:30 ◎ 6月中国CPI
- 10:30 ◎ 6月中国生産者物価指数（PPI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

7 日 18:20 欧州委員会

「ユーロ圏の 2021 年国内総生産(GDP)見通しは+4.8%
(従来+4.3%)」

「ユーロ圏の 2022GDP 見通しは+4.5%(従来+4.4%)」

「ユーロ圏の 2021 年インフレ率見通しは 1.9%」

「ユーロ圏の 2022 年インフレ率見通しは 1.4%」

7 日 20:29 ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事

「世界的なインフレ率の持続的な上昇リスクが高まっていることから、早急な金融引き締めが求められる」

8 日 02:43 ボルソナロ・ブラジル大統領

「現行の投票制度が維持されたままならば、2022 年の選挙結果を受け入れない可能性」

8 日 03:09 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨

「委員はテーパリング開始の基準に向けた進展が続くと予想」

「実質的なさらなる進展の基準は、まだ満たされていない」

「短期金融市場では金利の下向き圧力を観察。短期的にはこれらの金利に対する一段の下向き圧力の可能性」

「何人かの委員会は目標に向けた進捗状況を評価し、資産購入計画の変更を発表するのに辛抱強くあるべきであると強調」

「委員は経済活動と雇用指標が強まったことに同意した」

「ワクチン接種の進展は、公衆衛生危機の経済への影響を引き続き減少させる可能性が高いが、経済見直しへのリスクは残っている」

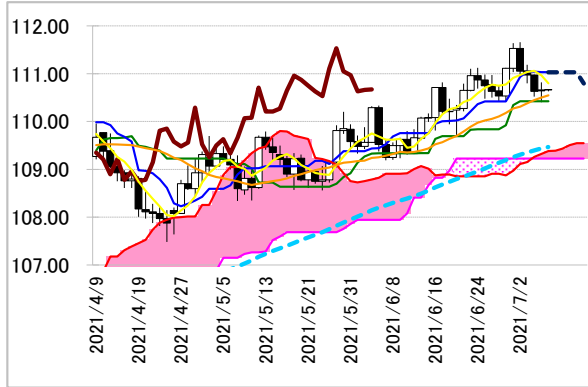
「インフレ上昇の最大の要因は供給のボトルネックの影響を受けたセクター、またはパンデミックによって落ち込んだレベルから価格レベルが回復しているセクターと認識」

「長期的なインフレ期待は目標と概ね一致する範囲にとどまっていると認識」

「多数の委員はインフレに対するリスクが上向きに傾いていると判断」

※時間は日本時間

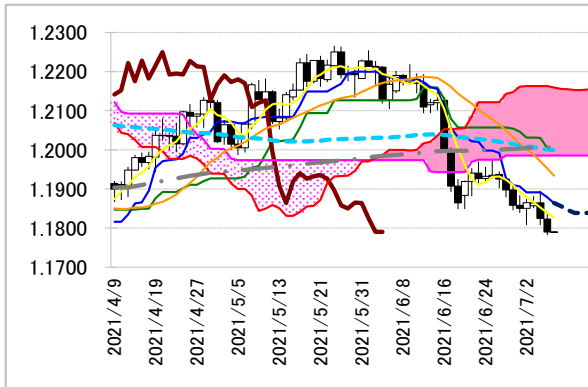
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝基準線を試すも下げ渋る>

極小陽線引け。一時110.40円と、一目均衡表・基準線110.43円を割り込んだ。しかし下される展開には至らず、110.50円台で上昇中の21日移動平均線を回復した。21日線が現行ペースの上昇を続ければ、今後低下する公算の一目・転換線と110.70円台で交差する見込み。そのレンジへ向かうことが想定でき、現水準付近の底堅さを維持できそう。下押しがあっても基準線前後で再び下げ渋ることが期待できる。

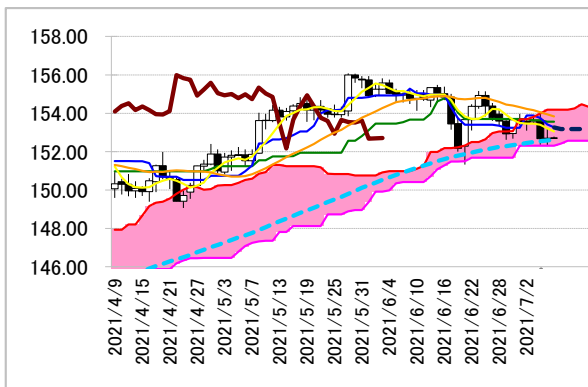
レジスタンス1	111.03(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	110.66
サポート1	110.21(6/22 安値、ピボット・サポート2)
サポート2	109.72(6/21 安値)



<ユーロドル＝短期ダブルボトムを形成できず下落継続>

陰線引け。2日に下げ渋った際の安値1.1808ドル付近にとどまることができず、短期スパンでのダブルボトム形成の期待をかなえることはできなかった。一目均衡表・転換線の方向性が示唆する下向きの流れは継続へ。目先のすう勢を示す5日移動平均線の低下をとめない、下値を広げる展開が続くとみる。

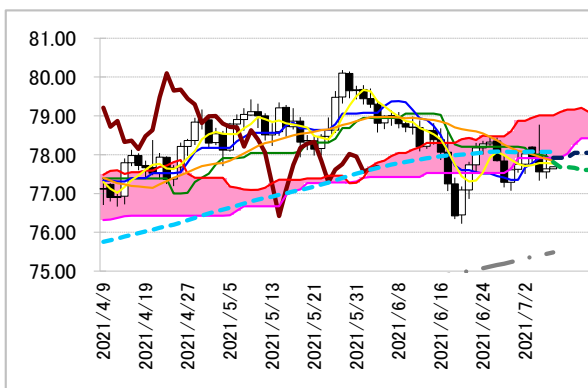
レジスタンス1	1.1864(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1790
サポート1	1.1738(4/5 安値)



<ポンド円＝転換線と90日線が交差する水準へ収れんか>

極小陽線引け。戻りは、6日に154円台、昨日は153円台をどうにか回復する程度にとどまり押し返された。ただ、152.60円付近で緩やかに上昇する90日移動平均線付近で、足もとの下押しの流れ停滞を示唆する極小線を形成。同線や一目均衡表・雲の下限152.30円付近の底堅さを維持できそう。一方、低下中の一目・転換線と基準線が戻りを抑制しそう。相場が、転換線と90日線の交差が想定される152.70円台へやがて収れんすると考えるなら、当面は現水準付近のレンジ中心の振れにとどまるか。

レジスタンス1	153.26(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	152.69
サポート1	152.04(4/23-6/21 安値を通る上昇トレンド)



<NZドル円＝上向き示唆のテクニカル指標も散見>

小陽線引け。78円台回復を試すも押し戻された。動意の鈍さを示唆する小さな値幅のローソク足を形成。低下傾向の一目均衡表・基準線77.81円が目先の抵抗になる可能性もあるが、一目・転換線はまだ切り上がる見込み。一目・雲の下限も上昇と、上向きを示唆するテクニカル指標も散見される。78.08円前後で横ばいの90日移動平均線も位置する78円台回復への期待はまだ継続している。

レジスタンス1	78.12(7/7 高値)
前日終値	77.64
サポート1	77.07(6/30 安値)

